



洞 爺湖温泉では、2000年の有珠山噴火以来医療機関がなく、不安な気持ちを抱きながら生活していた住民も少なくありませんでした。ホテル、旅館なども宿泊客の急な病気の対応に苦心し、それが観光客の誘致にも影響を及ぼすことも多々ありました。

人 **洞爺湖温泉診療所の院長に就任した**

原 修 一さん (77)

に対応する診療所を、洞爺湖温泉街に開設しました。

現在、同診療所の院長として、診療所の2階に住込み、午前は診察、午後は往診、そして夕方からまた診察とフル回転し、急患は24時間体制で受付けるなど、喜寿を迎えてもそのパワーは衰えをしません。

四国の高松市で24年間開業し、10年程前に四国を離れ、旧大滝村の北湯沢温泉病院に勤務。一旦四国に戻りましたが、介護老人保健施設「北湯沢温泉いやしの郷」に移行するのにもない、病院側に乞われて北海道の地を再度踏みました。

今度は、最後の地と考え、「続けられるところまで続けていきたい。頭の上から足の先まで診てあげるつもりです」と意気込みを語ります。

昼夜を問わない診療体制も「月2回ぐらい好きなゴルフができればあとは問題ない」と破顔一笑します。若い時から地域医療に関わってきた多くの経験が、地域住民の安心を醸成していくことでしょう。

診察時間は、平日午前9時～正午、午後6時～9時。午後は訪問診療。

洞爺湖有珠山ジオパーク



多数の火口を作った1910年山麓噴火と
四十三山潜在ドームの成長

1910年7月19日に小さな前兆地震が始まりました。21日には地震の回数が増え、揺れも大きくなりました。地割れや泥水の湧出も相次ぐ中、25日に大きな地鳴りの後、金比羅山でマグマ水蒸気爆発が始まりました。その後、西丸山の方へと火口の位置を移動しながら、次々と少なくとも45個の火口が北山麓の東西2.7kmの地帯に開きました。8月に入ると、西丸山東側の湖畔一帯が隆起し始め、11月10日までに117m隆起して四十三山潜在ドームを形成しました。この一連の火山活動の後に、有珠山北麓で温泉が発見され、現在の洞爺湖温泉へと発展することとなりました。

四十三山散策路

昨年、1910年（明治43年）の噴火によって形成された地形をたどる洞爺湖有珠山フットパス四十三山ルートが整備されました。1910年の火山活動の後半には地殻変動に伴う地盤の隆起が見られました。火口付近で地下に貫入したマグマによって地面が押し上げられ四十三山潜在ドームを形成しました。現在の洞爺湖温泉の熱源はこのとき貫入したマグマの熱を源にしています。噴火から100年近く経過した現在でも水蒸気が噴出し続ける噴気孔や回復しつつある森林を観察でき、バードウォッチングも楽しめる緑豊かな遊歩道です。



金比羅山

金比羅山は有珠山の山麓にある潜在ドームです。1910年噴火では、金比羅山を南北方向に広げる一対の正断層が形成されました。1910年噴火で生じた火口群の西端は金比羅山の山頂部に分布しています。これは2000年噴火の金比羅山火口群の分布範囲と重なっています。

